



# 密室の会議

てすん@砲雷ね-15



「この男は？」

プロジェクトに映し出された写真を見て、若いスーツの男は言った。映し出された写真には、幼い少女の傍らに成人の男が立っていた。

「名前はウィリアム・ヴァンキツシュ。あまりバツとしない地方貴族の頭首だ。幾つかの金融資産を有しているが、それだけだ。表向きはな」

老獪な男が意味ありげに区切る。

「表向きってことは」

「こいつはどうやら、秘密情報部のエージェントらしい。確定した情報ではないがな」

そう言つて、タバコに火をつける。

「SISのスパイ……まさに007<sup>007</sup>つてヤツですか。では、こいつの身辺洗う感じですかね」

「いやあそうじゃねえ。この男はついでだ。俺たちの任務のメインはこつちだ」

いまいましてにスクリーン代わりの壁を叩く。

「つて、小さい女の子じゃないですか。この子が、なんなんですか？」

紫煙を吐き出し、声のトーンを一つ下げて男は言う。

「こないだ、人権派議員の殺しがあったろ……」

「ロンドンであつたあの発砲騒ぎのヤツですか？ ……ま

さか」

「1件目の狙撃があつた後、すぐ若手の議員が走り出したらしい。こいつは元軍の狙撃手だな。狙撃ポイントをとつさに割り出したんだろう。んで、その10数分後に約2キロ離れたビルの上で、その議員は首をかつ切られて死んだ。おもしろいことに目撃証言があるんだよ。そのそばで、この娘つ子を見たつていう」

「……ぐ、偶然じゃないんですか」

「関連性に確証はねえ。だからそれを調べるんじゃねえか」

「でも、いいんですか？ SIS<sup>SIS</sup>つて政府の機関でしょ？ 議員殺しに関わつてるとなると、手出しちゃまずいんじゃない」

「構うもんか。相手が政府だろうとなんだろうと、所轄内で銃を使った殺し、それもこんな幼いかわいこちゃんにやらせてるとなりや、放つておけるわけねえだろが。なんだ、上から釘刺されたくれえでびびつてんのか？」

「そ、そんなんじゃないですよ。ただ、普通のヤマじやないですね、これ」

カップのコーヒーを飲み干して若い男は言った。

「そんなのは百も承知よ。ほれ、ぼさつとしてねえで行くぞ」

上着を取り、部下を急かして男——ノックス刑事は部屋を出て行く。

——これがやばいやまだったのはわかつちやいる。だが、  
見て見ぬ振りなんてできるわけねえんだよ、大人としちゃ  
あな。

---

---

## 密室の会議

発行日 2019年10月2日

著者 てすん@砲雷ね-15  
<https://www.pixiv.net/member.php?id=3669242>

Generated by pixiv

本書を無許可で複写・複製することは、禁じられています。

---

---